

アメリカンフットボールの北海道学生選手権が25日、札幌市円山陸上競技場ほかで開幕した。甲子園ボウルにつながる1部リーグは2試合を行い、連覇を狙う北海学園大と2年ぶりの優勝を目指す北海道大が、ともに白星発進した。

北海学園大は昨季6位の帯広畜産大と対戦。第2QにDB永井峻（3年、札幌光星高）のインターセプトリターンTDで先制すると、QB佐和田健悟（4年、名寄高）とQB森喬亮（2年、北海高）がWR成田将吾（4年、北海道栄高）とWR佐藤玲太（2年、札幌光星高）に立て続けに3本のTDパスをヒット。第3QにはLB井利元宙夢（3年、大麻高）がパントブロックのボールをエンドゾーンに持ち込み、リードを広げた。帯広畜産大は第3Qに北海学園大のミスでつかんだ好機に、RB池田海斗（3年、富山・魚津高）のランで1TDを返すのが精いっぱいだった。

北海学園大の斎藤一翔監督は「新しい選手の活躍が収穫」と連覇に向けて手ごたえを強調し、2TDレシーブでパス攻撃を牽引した成田主将は「今年のスローガンはクラッシュ。もっともっとハードなプレーで、次の試合は序盤で決めたい」と意気込んでいた。

昨年5位の北星学園大と対戦した北海道大は、先発QBに1年生の茨木大輔（兵庫・六甲学院高）を抜擢。茨城はタイミング良いショートパスでRB中牟田景基（3年、埼玉・浦和高）とRB荒山赳（4年、東京・麻生高）のTDを呼び込むなど、堂々と攻撃をリードした。後半から登場したQB佐藤健（2年、東京都市大付高）も6回のパスで105ヤードを稼ぎ、RB中牟田、RB手塚雅斗のTDランを演出し、58-10の圧勝につなげた。北星学園大は第1QにRB/K川上健太（4年、北星大付高）のFGとTDランで10-0とリードしたが、第2Q以降は無得点に抑え込まれた。

北海道大の村井公寿監督は「茨木、佐藤の2人ともフィールドの奥まで放り込めるのが魅力」と若い戦力に期待を寄せ、晴れ舞台を飾った茨木も「開幕戦の先発はすごく緊張したが、もっと良いパスを投げて、オフenseの良い雰囲気をつくりたい」と決意していた。

第2節は9月1日、同競技場で1部の札幌学院大-札幌大戦と2部の1試合を行う。